

協 議 会 議 事 録				
会議名	平成 24 年度 第 2 回江田島市公共交通協議会			
日 時	平成 24 年 8 月 31 日 (金) 14:00~15:30			
場 所	江田島市役所 2 階会議室			
出席者	県立広島大学	名誉教授	の はら けんいち 野原 建一	○
	広島商船高等専門学校	教 授	おかやま まさと 岡山 正人	○
	江田島バス株式会社	代表取締役社長	はすだ つとむ 蓮田 勉	○
	江田島バス株式会社	従業員代表	すぎい くみお 杉井 公美雄	○
	広島県旅客船協会	会 長	に っ た い ち ろ う 仁田 一郎	○
	瀬戸内シーライン株式会社	船員代表	た に ぐ ち み の る 谷口 実	×
	広島県タクシー協会 江能支部	支部長	い ま み や こ う じ 今宮 浩二	○
	江田島市自治会連合会	会 長	お が た けんそう 小方 憲三	○
	江田島市老人クラブ 連合会	会 長	な か も と の ぶ こ 中元 信子	○
	江田島市社会福祉協議会	会 長	お お つ か つ ひ こ 大津 克彦	○
	江田島市女性会連合会	会 長	お か だ れ い こ 岡田 鈴子	○
	江田島市観光協会	会 長	な か し ま ま さ る 中島 勝	○
	中国運輸局海事振興 部旅客課	課 長	お か ざ き え い じ 岡崎 英治	代理出席 う め だ し ゅ う い ち 梅田 修一
	中国運輸局広島運輸 支局	首席運輸企画専 門官	や ざ わ し ゅ う じ 八澤 昭二	○
	広島県地域政策局 地域政策総務課	課 長	や た が い ひ で ゆ き 八谷 秀幸	代理出席 あ く た が わ ま さ ひ ろ 芥川 雅洋
	江田島警察署	地域交通課長	ひ ら の り た か 平 徳隆	○
	市議会交通問題調査 特別委員会	委員長	と ち や す の り 登地 靖徳	○
	江田島市	副市長	し ゅ う い よ し あ き 正井 嘉明	○
	江田島市	総務部長	ど て さ ん せい 土手 三生	○
	江田島市	土木建築部長	い し い か ず お 石井 和夫	○

1 開 会	
事 務 局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
3 議長の選任について	
事 務 局	野原委員を議長に選任
4 協 議	
(1) 大須～切串間の朝夕便の運行について	
事 務 局	－資料 1 により説明－
議 長	事務局から説明があった資料 1 について、何か意見はないか。
委 員	特になし。
議 長	料金について、10 月以降 1 乗車 200 円ということによろしいか。 それでは大須朝夕便について、承認をいただいたということを取り まとめたい。
(2) 江田島バスの運行について	
事 務 局	－資料 2 により説明－
議 長	江田島バスの運行について、これについて何か意見はないか。
委 員	住民を対象としたアンケートと書いてあるが、全市民を対象とした アンケートか、それとも利用者を対象としたアンケートか。どちらが 実用的だろうか。
事 務 局	アンケート調査については、前回おれんじ号を初めて走らせた際 に、利用者のみを対象としたアンケート調査を行った。しかし、使わ れていない方がなぜ使われていないのか、あるいは車を使われる方が どちらへ移動されるニーズをお持ちなのか、そういった点も調査した いということがあり、今回は全市民を対象に、旧町単位で各町ランダ ムに 500 世帯ずつ抽出し、全部で 2,000 世帯に対し各世帯 3 通同封し たものを送ろうと考えている。 3 通というのは、おひとりで暮している方もいるだろうが、ご夫婦 とお子様や祖父母がいたりするだろうから、いろんな方にアンケート 回答をいただければと思い、そのような形を考えている。
委 員	全市民というのも良いのだが、いろんな会議に出席していると、今 アンケートが集中している。市民からすれぼうんざりしていると思 う。だからそこを十分に運営されないと、せっかくお金を使 ったアンケートが返ってこないということもあると思うので、無駄の

	ないやり方をしてもらえればと思う。
議 長	効果的なアンケートの方が良いのではないかという指摘である。事務局にはその点お願いしたいということだが、いかがか。
事 務 局	効率的なアンケートになるよう努めていきたい。
議 長	市民の中には「またか」とうんざりするようなアンケートになるかもしれないが、できるだけ回収率を高くするように、答えやすいようにしていくのは非常に良いアイデアだと思うので、その点は無駄なくお願いしたい。
委 員	<p>我々は平素、バスを運行する場合に、とにかく市民の皆様へ便利に使っていただけるようにというのが基本なので、そういう気持ちでやっている。しかし、皆が皆、全員を網羅することというのは本当に難しいことなので、その中でこういった形で最善を尽くすかということをやっている。皆様から見れば努力していないように見えるかもしれないが、私共は日々努力して、最善を尽くすようにしている。</p> <p>一元化した平成 20 年から、いろいろ変更しながらベストを尽くすようにしているが、その中で基本は利便性向上ということで、先ほどの説明の中にもあったように、例えば中町～ゆめタウン間の増便というのは、同じようにあっても皆様の利便性の良い時間帯に集中して運行するようにしている。</p> <p>過去にも船とバスとの関係で、船のダイヤに合わせてバスのダイヤを、というのが大体の利用者の気持ちだったが、船は船の都合、バスはバスの都合があり、なかなかうまくいかない時間帯のものもあった。今まではそれぞれの気持ちを強調した部分があったのだが、ごく最近の動きでは、新しい企業局長との調整が何度かあり、船もバスも遅れることがあるのだが、船の場合だと「この船は予定よりも遅れている」ということを船内放送でやっていただいているということで、お互いができることをお客様に対してやっていこうではないかということをしていろいろ申し合わせている。船内放送でも、もう少し「5 分ほど遅れている」と言う形でやっていこうと、お客様を大事にしていこうやり方でやっていこうではないかと、話し合いをしてやっている。</p> <p>先ほどの増便の話だが、具体的には中町～ゆめタウン間は、ゆめタウン江田島の協力もいただき、バス停を 3 つに分けて、各方面にバスをつけて利便性を上げていこうとした結果、改正前で 8 名程度であった利用が、改正後は 18 名くらいまで利用が伸びているので、皆さん利用されているのだなということが、改正後の状況として出ている。</p> <p>そういったことでいい面もあるのだが、最後に説明されたように、沖地区で自分が利用したい時間にバスが合っていないということで何とかならないかという要望がある。これも決して放置しているわけでは</p>

	<p>なく、市とも協議していろいろやっている。決してここでバツサリと切るわけではなくて、良い方法があればその方法でやっていこうという姿勢はあるので、その面でのご理解をいただきたい。どのご要望でもそうだが、今すぐご要望にお応えできるところとできないところがあるということだけは、ご理解いただきたい。</p>
議長	<p>資料 2 の裏面に市民からの要望というのがあるが、これについて何かあるか。</p>
委員	<p>今申し上げたように、具体的には 19:46 の便は 4 名程度ご利用いただいている。17:10 と 19:46 の間に 1 便あれば良いということだが、この 4 名が実際に利用してもらえるのかどうかということがあり、恐らく分散するのではないかと可能性を我々は心配している。</p> <p>絶対駄目かといえ、できないことはない。ただし平成 20 年のダイヤに戻す形になるので、その経費も考慮しなければならない面もあるので、皆さんのご負担も併せてという格好になるかと思う。どの方法が良いかというのは検討している状況である。</p>
議長	<p>委員以外の方からの意見があるようなので、短くお願いしたい。</p>
傍聴者	<p>三高発の 17:10 を説明してほしい。住民が全然わかっていない。三高発 17:10 の数字がどこから出たかという説明がないという意見が多数ある。教えてもらえないか。</p>
委員	<p>すぐ一言で簡単に答えられない。それぞれの時間帯の持っている意味というのがある。それぞれのダイヤを設定している根拠はある。</p> <p>17:10 だけに限定してという、バスというのはご存じのように、全体の流れの中でどういう設定をしていくかということで、バスにしても船にしても、過去の時代背景もあると思うが、人の動きが例えば通勤通学で多いからというように、いろんな理由がある。この部分がこうだと言うのは、非常に難しいと思う。私が答えられる説明の仕方というのは、今のような言い方でしかできない。</p> <p>特に三高の場合は、時代的な背景というか、芸備商船との関係でそのような設定があったのではないかと思う。三高発というのは船との連絡もあると思うが、途中で変わってきて現在の状況というのも考えられる。これという説明は難しい。</p>
議長	<p>委員の一存ではなかなか聞きにくいことがあろうかと、また、これまでの経緯がある事柄で単純には答えられないということもあるということである。</p> <p>江田島バスの運行についてはただいまの取りまとめ、承認でお願いしたい。</p>
(3) モーダルシフトについて	
事務局	<p>—資料 3 により説明—</p>

	<p>本来ならば、この「モーダルシフトについて」というのは報告事項で良いかと思ったが、運輸局に伺った際に、私共が持って行ったアイデアでは採択は難しいけれども、先ほどあった機器等の購入経費などの工夫で何か効果が出る事業があれば、それはまた考える余地があると言われたので、こちらの方で皆様の意見・提案をいただければと思います、協議とさせていただきます。</p>
<p>議 長</p>	<p>事務局からの説明について、ご質問、ご意見はないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>前回これを問題提起したのは一例である。この協議会の目的は、永続的に安定的に、島と本土を結ぶ航路を続けなければいけないということ。どうやったら続けられるのかというときに、いろんな知恵を絞らなければならないという話の一つの例であった。これはたまたま国交省の方で補助金が出る事業であるし、いわゆる環境を守るという観点から、トラックで走り回るよりも船に積んだ方が二酸化炭素の出る量が少ないということは明らか。3 倍違う。そういう観点から何か航路の需要が増えるような施策が取れないか。たまたま補助金が出ることだし、活用できないかということであった。これが駄目というだけではなくて、いろんな切り口に発展して、皆さんを含めて知恵を絞ってもらえれば、我々もちろんそうなのだが、ということである。</p> <p>分科会でこの報告を受けた時にお願ひしたのは、日本でも大手の企業は、二酸化炭素を減らす義務を持っている。例えばゆめタウンにしてもデオデオにしても、ああいう大手企業は自分の商品を仕入れる時、配送する時、全ての企業活動の中で毎年 5%ずつ二酸化炭素の出る量を減らしなさいという義務を持っている。島の中で活動されているそういう大手企業に、市として、フェリーを使えば目標達成にも役に立つのだから、そういう気はないですかと聞いてください、こういう制度を使えば補助金も出る、やる気はないですかと聞いてほしかった。それから市が行う工事と同じ観点である。</p> <p>いわゆる利用促進のために、地元の皆さんにもたくさん使ってもらいたいし、行政としてもそれが促進できるような施策を何か打ってもらえないかという一例である。これだけに限らず、例えば広島市内から船に乗って江田島市内の施設を利用する時には割引をしようとか、何かそういう知恵はないかという一例として、この 2 つのことについて考えられないかということを出したつもりである。ピンポイントでこれは駄目というので終わらずに、そういう意識でいろんな観点から研究を続けていってもらえればと思う。</p> <p>我々船の業界も、江田島市が今後どういう島にしたいのか、どういう施策で島の人口を増やしていきたいのか、観光人口を増やしていきたいのか、こういうことがあれば、その助けになるような企画を考</p>

	<p>えたい。この協議会に限らず、もっと連絡を取り合って需要が拡大することを考えないと、ただ補助金とかに頼っているだけではそれが切れた時になくなってしまう。そういう意味でこの質問をした。</p>
事務局	<p>モーダルシフトについては報告というか、聞いていただくことをまとめただけという資料になっているが、委員が言われたとおり、今後交流人口を増やしていきたい。残念ながら市の人口は伸びる予測にはなっていないので、生活航路という面は重要だが、島に住んでいる人だけを相手にしていくのでは航路自体ジリ貧というのは目に見えている。広島市や呉市から人が来てもらえるよう施策については考えていく必要があると思っているし、まだそういった知恵が出ていないのでそのような資料は出していないが、そういうことをまた内部でもじっくり検討していきたい。</p>
委員	<p>モーダルシフトのことではないが、委員が言われたことについて、この島へどンドン船で入込交流してもらうことが大変大事だと思う。そのことで私は詳しくないのだが、自動車の場合は燃費がうんと良くなった場合には税制優遇があったり補助金を出したりしているが、例えば船の燃費が基準を超えて良くなった場合には、その船の建造費用に対して補助金が出るという制度があるのかないのか。分かれば教えてもらいたい。</p>
委員	<p>船の方も「低炭素改造事業」というものがあり、例えば改造して燃費を良くして、出る炭素が削減された場合に、その改造に係る費用の 1/3 ないし 1/2 をみるという制度が今年もあり、何社か利用されている。ただし今年度については終わっている。</p> <p>来年度もあると思うが、それはまだわからない。平成 22 年度から 3 年間続いているので、可能性はあろうかと思う。</p>
委員	<p>たぶん、始まったばかりの制度で、政権が変わろうが変わるまいがこれは進むことであろうと思うし、要は低炭素化、我々も避けては通れないし、地球人みんなが進まなければならない道。いろんなものをとらまえながら、市としてもいかに効率のよい、燃費の良い船を獲得していくかということ、方向性を打ち出して鋭意進めていただきたいと思う。</p>
議長	<p>全体の傾向としては低炭素化、CO₂ をできるだけ抑制するという流れになっているので、そういう動きについては積極的に、国からも自治体からも支援する方向でお願いしたい。</p> <p>それではモーダルシフトについてはご了解いただいたこととする。</p>
(4) 航路とレンタサイクルのセット販売について	
事務局	<p>－資料 4 により説明－</p>
議長	<p>航路とレンタサイクルのセット販売について、これは交流人口の拡</p>

	<p>大という意味合いでは、大変良い効果を表すのではないかということである。これについてご意見、ご質問をお願いしたい。</p> <p>県知事もサイクリングを好まれているようだが、その流れに沿っているレンタサイクルではないかということである。最近では電動式自転車というものが出ており、高齢者も利用しやすいということである。庄原市の国営備北丘陵公園では、電動の場合では値段が上がっている。いずれにしても、ここは知恵の出どころであると思うが、いかがか。</p>
委員	<p>自転車は私共の担当だが、おかげさまで着実に利用者数は増えている。いろんな飲食関係のお店に入ってもらったり、島の特産品を販売できたりするように持っていきたいという夢を描いている。</p> <p>レンタサイクルの貸出場として、切串（西沖棧橋）を入れればほぼ完成形になり、乗捨料金をうんと下げることでもあるのではないかと内部で検討している。上村汽船の社長、切串は大丈夫か。</p>
オブザーバー	<p>今日の会議前に観光協会事務局長と会合して、9月中旬をめぐりにやるよう協議した。</p>
委員	<p>そういうことで、着々と進めていきたい。今後の方向性について、どれをとっても十分見通しの立てられる方向であるので、頑張っていきたい。</p>
議長	<p>課題の切串港も通過する予定であるとのことなので、レンタサイクルを活用した交流人口の拡大ということは十分理解できるということである。</p>
委員	<p>先ほども申したように、これは江田島市としての生き方の問題だと思う。ぜひ市議会や市でも検討してもらいたいのだが、本当にサイクリングで町おこし、島おこしをするというのであれば、いろんなことにまつわる整備、お金の使い方があると思う。</p> <p>広島県の湯崎知事と愛媛県の中村知事が今度は台湾へ行かれ、世界最大の自転車メーカーGIANTの会長にお会いになった。前は会長がこちらに来られ、江田島市やしまなみ海道にも来られた。今治にGIANTの自転車のお店ができて、しまなみ海道はそこを拠点に情報発信して、GIANTの名のもとに世界中からお客さんを集めようというお店ができた。例えば江田島市にGIANTのお店を出してもらおうということや、今後の貸出場所・乗捨システムのことも含めて、市でもどこまで自転車での町おこしに力を入れるのか、どういう整備にお金を使うのかということ、市議会にも、突き詰めてお願いしたい。</p>
委員	<p>どんどんこの島に来ていただくためには、あくまで船が大事である。この船のいわゆるホスピタリティ、船員の接客態度、この辺りが大変重要になってくる。これにはお金もかからないので、「江田島航路の船はどれに乗っても船員の態度が良い。あの船にまたみんなを連</p>

	<p>れて乗りに来たい。」と言われるようになってほしい。</p> <p>どこの船会社の接客態度が一番良いかというのを、秘密裏にいろんな会社の社長に頼んで調べてもらっている。このお客様へのおもてなしの態度、入口が船なので、江田島行きは良い、どの航路も良いと言われるよう、頑張ってもらいたい。そしてどんどん交流人口を増やしたいと思うので、船会社の皆さん、よろしくお願ひしたい。</p>
オブザーバー	<p>このレンタサイクルの事業、はやりの事業で大変良いと思うのだが、ちょっと心配なのが、確かに自転車は来るのだが、先ほど委員が言われた、お金がどのくらい落ちるのだろうか。</p>
委員	<p>詳しくは聞いていないので、事務局長に聞いてみるが、着実に伸びている。</p>
オブザーバー	<p>船会社はありがたい話で、料金がいただける話なのだが、来てお金を落とさずに自転車でぐるっと回ってそのまま島から出られたのでは、島民にとって何がプラスなのかということになりかねないので、来られる方が江田島市に何らかの形で、経済的な支出というか消費を促すような工夫を、ぜひ付け加えるようなことをした方が良い。その方が船会社としても安心。我々も市に貢献できるという点では、手前だけが運賃をもらってという話には継続性が乏しいという気がするので、その工夫をどうするのかということをつけ加えると良いと思う。</p> <p>具体的な例としては、船会社のどこから出ても 1 割引か 2 割引をして、その割引いた分を地域振興券のようなものでお渡しし、それを島内のどこかで利用すれば、貨幣価値を持ったものとして扱って、そこに提携できるところには購買につながるというところで、少しでも地域にお金が落ちる、そんな工夫ができることが必要だと思う。そのようなことが委員から話があったが、これを活用して地域が発展することに、船会社が役立たせていただければと思う。</p>
委員	<p>心強いご意見をいただいた。皆真剣なので、頑張りたい。</p>
会長	<p>市の方でも、レンタサイクルについては全く何もしていないという訳ではない。観光協会の方にもお願ひをしているが、道路環境の整備について、新規事業で「魅力づくりのまちづくり」ということで予算付けをしている。少しでも環境を整えながら進めていきたい。</p> <p>また、どの程度のお金が落ちるかということだが、ほとんど落ちないのではないかという噂もある。ジュース 1 本買ってもらい自然を楽しんでもらう程度ということであれば、経済効果云々ということではないのではないか。ただ、ふるさと交流館に立ち寄ってもらい、アイスクリームを食べたりコーヒーを飲んだり、できれば昼食を食べたりという場面を、昼食では「さくら」もあるし「海辺の新鮮市場」もあるし、そういったところで昼食を PR してもらおう。そこでサイクリン</p>

	<p>グの場合は格安で食べられるなど、何か支援策があればということが考えられる。</p> <p>生活航路を維持していくために、交流人口を増やしていく。レンタサイクルも一つの方法だが、今ご承知のように、江田島市では民泊の体験型修学旅行誘致に力を入れている。この 10 月にも奈良県から平城高校が 160 名くらい来られる。広島県では最初のスタートということで、これを核にしながら交流人口がどんどん増えていければと考えている。そしてこれを航路と結び付けたい。</p> <p>昨年清風中学に、大阪の私立名門校だが、モニターツアーに来てもらい、航路を利用して小用港から帰ってもらった。小用港から横断幕を掲げてお見送りをしたところ、船会社の粋な計らいで、出てぐるっと 1 周して汽笛を鳴らして、非常に感動的に別れを告げて、市民の中からも「さすが民間の事業者だ、粋な計らいをしてくれる。」と好評を得て、ありがたいことだと思っている。</p> <p>今後ともいろんな航路を利用して、民泊型の体験型修学旅行を誘致していくので、この点は航路会社とも十分に連携を取りながら、どんなおもてなしができるかお願いする場面もあろうかと思うが、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>民泊とか体験学習というのは、すごく目があると思う。今は修学旅行が対象だが、船で島に入る、船で島を離れるというときの感動というものをセットで。場合によっては紙テープなどをやっても良いと思う。客船ではよく銀河などでやっているが、ものすごくお客さんが喜ばれる。そういうものを定例化しても良いし、あるいはサイクリングの皆さんにも島での体験というものを、漁業体験でも地引網体験でもみかん狩り体験でも、そういうもので島にお金が落ちるようなものが必要になってくると思う。交通事業者もいろんな面で協力したいと思うので、よろしくお願ひしたい。</p>
<p>議長</p>	<p>江田島市の一自治体だけではなかなか難しかろうと思うので、観光協会をはじめ各種団体のさまざまな協力により、島に来られた方々に対して、感動に残る演出をしてもらうのは、非常に良いことである。</p> <p>それではこのことについては、承認していただいたとして取りまとめる。</p>
<p>(5) 第 2 音戸大橋開通に伴う影響について</p>	
<p>事務局</p>	<p>—資料 5 により説明—</p>
<p>議長</p>	<p>第 2 音戸大橋は今建設中だが、この開通に伴い、地域に、そして江田島市にどのような影響を与えるのかということで、2 年前の 6 月に調査した県のデータがあるので、それも参考にしながら意見・質問をたまわりたい。</p>

委 員	<p>2～3 か月前に呉～小用間の瀬戸内シーラインが運賃を値下げした。その結果というか効果を教えてほしい。他の航路がどうされるのかも聞きたい。第 2 音戸大橋が開通したときに、主に広島～江田島間でフェリーを利用されている方が、陸上を走る割合がどのようになるか、私も大変興味を持っている。今の料金が正しいのか、それを下げた方が良いのか。やはり利用される方は陸上を走った有料道路や燃料代というものと運賃とを比較して、船に乗るか陸上を走るかということ判断されることが多いと思う。</p> <p>もうひとつは、広島呉道路の土日や早朝夕方は料金を下げており、利用客を増やしているわけだが、そこに対して船が今度どういう対応をされるか、大変興味を持っている。一例として、島の酒屋がほとんど全滅に近い状態になっている。なぜかという、酒屋の安売りが全国で起きていると思うが、そちらにお客さんが行き、小売りの酒屋が値段が高いままで販売する。消費者が少なくなればなるほど利幅を上げないといけないから値段を下げないというので、結果的には店をたたむ状態が出てきている。</p> <p>酒屋を例に挙げたが、来年の第 2 音戸大橋ができることで、海運会社にとっては大変神経を使う状態がやってくるのではないかと想定されるので、良い答えがあれば聞かせてもらいたい。</p>
事 務 局	<p>呉～小用間の値下げの結果・効果については情報を持っていない。他の航路がどうされるかについても情報を持っていない。</p> <p>開通したときに車の流れがどのようになるかについては、お配りしている資料にもあるが、例えば宇品～切串フェリーについて 95.8%ということになっているので、仮にこの航路に 100 台利用されているとして、5 台が大橋の方に回るだろうという予想になっている。計算式をみると、時間短縮効果と料金による係数を作って、この数字を動かすことによって数字を弾くという式になっていたもので、料金がどれくらいかかるかということと、時間短縮効果がどれくらいあるかということに基づいて、県の方で分析・推定された数字になっていると考えている。この中で今の料金が正しいのかどうかということについては、こちらではお答えする材料を持ち合わせていない。</p>
議 長	<p>県の方で、資料など補足するものはないか。</p>
委 員	<p>この影響力調査は土木局がやっていたので、詳細資料をいただいているが、こちらに持ってきていない。資料に関しては追加することはない。</p>
議 長	<p>呉～小用間の運賃値下げということも行われていて、そういったことが他の航路へどのような影響を与えているかということだが、仁田委員の方で何かご存じではないか。</p>

<p>委 員</p>	<p>これは航路の便数やダイヤの組み方、あるいは料金設定の仕方が各社まちまちで、考え方もそれぞれ違う。その中で呉～小用間は先行してやったが、これも正しいのかどうかというのはわからない。結局各社の判断によるのだが、今までの経験からすると「橋には勝てない」というのが、船会社一般的に言える結論である。これは本四架橋あるいは他の地方架橋でもそうなのだが、どんなに頑張っても橋には勝てないというのが最終的な結論。その中でどうやって各社自分の航路を守るのかというところで、いろいろ施策を、もがきながらやっているというのが現状だと思う。</p> <p>ここで提案があるように、ぜひ県で音頭を取っていただきたい。広域にまたがる県の橋だし、広島市・呉市・江田島市、多くのところに影響があることだから、ぜひ県でも音頭を取ってもらって、この間の交通をどうするのかということを議論する場を作っていただきたいというのが、かねてからの旅客船協会からのお願いである。</p> <p>それと同時に、これだけ影響が出るということがわかっているので、県の方では生活航路に対する補助の制度を昨年から作っていただいたが、まだまだこれに外れているところもあれば、減価償却のところを見ないとか、改善あるいはもっと使いやすくするよう拡充してもらおうとか、いろいろ考えられると思うので、ぜひ県にお願いしたいというのが、分科会でも出た話である。</p>
<p>議 長</p>	<p>特にここでは今後の対応として、案ではあるが協議会の設立へ向けて、生活航路を維持する必要性というものを議論することになるかと思うが、これについて県の方で意見はないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>協議会を設置する話だが、関係航路の今後のあり方についてという形での協議会というのは、具体的にどういった協議をされるのかということをお聞きしたい。</p> <p>行政でいえば、施設のあり方というものを考えるときは「存廃論」ということになる。今ある施設、先導的に県が作った施設が、周辺に民間の施設ができて利用が低調になった場合、その施設をどうするか、では民間で作られた施設を優先し、少し離れたところへ同様の施設があるのでそれを利用してもらおうということによって廃止したり、土曜だけ活用したりエリアを区切って活用したり、そのようなことになってくるのが、基本的な今後のあり方についての話である。</p> <p>先ほど説明してもらったが、関係航路についてそういう形になってくると、そういったことを県が主導で決める会議になるのか。</p>
<p>委 員</p>	<p>県に決めてもらうというよりも、音頭を取って取りまとめをしてもらいたいということ。例えばその地域にとってどういう交通体系が望まれているのか、あるべきなのか、これは県としても県の総合交通政策の中でも、こういう地域を結ぶこういうバス路線であったり、ある</p>

	<p>いは航路であったり、航空路線であったり、そういうものがどれくらいの交通体系がいるのかというものを、県としても交通政策として持つ中で、当事者である江田島市・呉市・広島市あたりも、市域としてはどういう交通を維持すべきなのか、無くなっても良いのか、というところが基本点だと思う。もしそれを維持しなければならないというのであれば、それを維持するためにどんな方策があるのかということ、それぞれの立場で知恵を絞ってもらう場を作っていただければということである。</p>
議長	<p>つまり、生活航路を維持するための補助金という形で委員は言われていて、それについて県は施設云々を言われたが、生活航路についてはいかがか。</p>
委員	<p>例えば実際に鉄道交通の関係だと、沿線の 4~5 市町が利用の協議会というものを立ち上げている。利用促進して持続可能な交通として残していこうとして立ち上げている会議に、関係する JR や県が入ることはある。そういった形では駄目なのか。それか、こういう会議の場で話し合うというのは駄目なのか。</p>
委員	<p>この協議会には広島市も呉市も入っていない。この問題は、船については江田島市だけの問題ではなく、呉市の問題でもあり広島市の問題でもある。この協議会に広島市と呉市に入ってもらえるのか、それとも別に作るのか、どちらにしても島からかなりの数の人が、通勤通学で広島市で働いたり勉強したりしている。そういうことに関して、航路がなくなって良いのかということに、広島市も呉市も知恵を絞っていただきたいという、そういう話し合いをする場が欲しいという話。</p>
議長	<p>そういう広域的な協議会というものを、今後設立することが望ましいのではないかという意見である。</p>
委員	<p>話を持って帰って、上司の方に話をしてみる。</p>
委員	<p>少なくとも、県で必要と思われる航路については、補助の制度を作ってもらった。それを活用させてもらっているが、この制度だけでは第 2 音戸大橋が開通したときには救え切れない事例が出てくる可能性が高いということで、ぜひこの現在の仕組みもフォローアップというか、拡充もお願いしたいということも、旅客船協会として陳情している状況である。</p>
議長	<p>それは県や、場合によっては国も関係するかもしれないが、この第 2 音戸大橋は来春の近々の課題である。広域的な協議会を設立するというのは望ましいことであるということで、更なる検討を加えていただくということで、よろしくお願ひしたい。</p> <p>このことについて取りまとめたいと思う。今回、海上分科会が開催されたということだが、陸上分科会も影響があると思うので、そ</p>

	ういったものを含めてよろしくお願ひしたいと思う。
5 その他	
事務局	委員の変更について報告する。従前、市議会議長が指名する者として 2 名の委員に出てもらっていたが、山木委員から辞任の申し出があったため、今後は 1 名ということでお願ひしたい。
議長	特に規約変更はないということある。
オブザーバー	江田島市の東側は、ほとんど江田島小学校へ子供たちがバス通学している。私もバス会社にいたときに、あそこの校庭の中にバス路線を引っ張り込んで停留所を作れないかということで、一生懸命研究した覚えがある。その辺りはいかがか。 もう一つ、私がここへ呼ばれているが、ここへ 20 代 30 代の若いお母さんに傍聴に来させて、若い人はどう考えているのか、その辺りを聞いてみる必要があるのではないかと思う。
議長	学校の校庭の中にバスの停留所を設置することはできないかということを検討していただけないかということだが、これは担当部署でまた検討してもらおうということとする。 また、若い世代の声もできるだけ入れたら良いのではないかということだが、そもそもこの江田島市公共交通協議会は傍聴自由となっており、そういう意味では今後また事務局の方で周知してもらい、できるだけ市民の多くの方々で関心のある方にぜひ参加してもらいたい。
6 閉会	